

山梨県絹人織織物工業組合



作り手を前面にPR

郡内地域の織物産業において、新しい動きが始まっている。個々の組合の枠組みを超え、OEMからの脱却を目指し、オリジナルブランドの確立を目指す企業グループの活動が活発化している。

ヤマナシハタオリトラベルは、富士山織物協同組合(勝俣明美理事長)及び西桂織物工業協同組合(榎田則夫理事長)傘下の11社により2012年9月に設立された。設立後間もなく、エキュート立川に初出展したところ好評を得たため、伊勢丹新宿、銀座三越、第1回フリンジマーケット(都留)、渋谷ヒカリエ、岡島百貨店、阪神百貨店、エキュート立川、デフリシユール吉祥寺、あべのハルカスなど、全国各地に出展している。

ヤマナシハタオリトラベルは、「富士山のふもと、スロープロダクツに出会う旅」をテーマとし、『東京からたった1時間の富士山の麓の富士吉田市と西桂町には、今もかわらず機織りの音が響き、やさしい布とおいしいもの、元気なクリエーターが育っている。美しい自然とおいしい水の里で作られているからこそできるやさしい布たち。そんな布とクリエーターに出会える富士のふもとへトラベルしませんか』と呼びかけている。

県外で商品を販売することだけが目的ではなく、商品を手にとった方に産地に行きたい、その背景を知りたい、生産現場を見てみたい、作り手(職人)の話を直接聞きたいなどと思わせるような様々な工夫がなされている。

昨年8月の産地訪問、バスツアーに参加したグラフィックデザイナー事務所、mill design studioによる新しいパンフレットが3月に作成され、各社のオリジナルティを全面に押し出した商品展開を次々と行っている。

クールビズ、ウォームビズの影響によりネクタイ市場は縮小しているが、産地の若手のやる気が突破口となり、製品販売だけでなく観光までも含めた地域の活性化に貢献することが期待される。



渋谷ヒカリエの展示
(写真提供:富士工業技術センター)